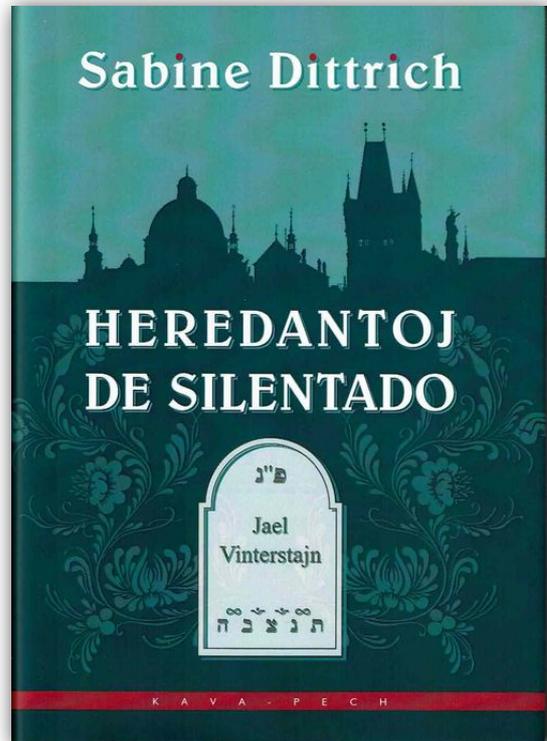


Heredantoj de silentado

verkita de Sabine Dittrich
eldonita de KAVA-PECH, 2017
148 paĝoj

この作品は、ユダヤ系ドイツ人の女性ヤエルの一人称によって語られる恋愛小説であり、彼女がプラハでチェコ人の男性ラデックと知り合い、次第に惹かれていくプロセスや、そのときどきの心理の動きが一人称で細やかに語られている。他方で同時に、彼らの仲が深まるにつれて、ドイツとチェコスロヴァキアをめぐる歴史の暗部、その中で彼らの祖母、祖父たちの人生が次第に明らかになっていく。その意味では歴史小説でもあり、二つの軸が絡み合っただラマは進展していく。本書は、ドイツ人の女流作家が2013年に刊行した小説（原題：Erben des Schweigens）のエスペラント訳で、昨年チェコのKAVA-PECHから刊行された。訳者はAleksandro Montaneskoで、これはドイツの練達のエスペランチストの筆名だそうである。



この小説を味わうために、まずドイツとチェコスロヴァキアをめぐる現代史を整理しておこう。チェコスロヴァキア、特にズデーテン地方には以前からドイツ人が多数住んでいた（いわゆるズデーテン・ドイツ人）。ヒトラーは彼らの独立要求を理由として、第二次世界大戦直前の1938年にズデーテン地方の割譲を要求し、これをミュンヘン会談で認めさせた。翌39年には、さらにチェコスロヴァキア全土を併合した。1942年には、ナチス幹部のラインハルト・ハイドリヒ暗殺に対する報復としてチェコ人に対する虐殺を引き起こした。他方、第二次大戦中には、多数のチェコスロヴァキア在住のユダヤ人を、テレジン収容所を経由してアウシュヴィッツ強制収容所に送り、虐殺した。

ところが、1945年のドイツ降伏に伴い、今度はチェコスロヴァキア在住のドイツ人が辛酸を舐めることになった。彼らは追放され、その過程で多数の人々が形式的な裁判を経て殺された。また、彼らの住居や財産もチェコ人に略奪された。しかも、そうした行為は共和国大統領令（ベネシュ布告）により刑事責任を問われないこととされたのである。

さて、ヤエルは当初、自分の家族の歴史について全く知らなかったが、調査や聞き取りの過程で、彼らが歴史にどのように翻弄され、辛酸を舐めたかをだんだん知らされることになる。祖母のヤエルはプラハで夫とともにカフェを営んでいたが、1941年、ユダヤ人が収容所に送られることになり、彼女は生まれたばかりの娘ハンナをドイツ人の従業員であったエルザに託す。そうして収容所に送られる途中、列車から奇跡的に脱出し、パレスチナまで辿り着いて、戦後はずっとイスラエルで暮らす。他方、エルザは戦後、チェコスロヴァキアを

追われてハンナとともにドイツに住む。そのハンナの娘がこの物語の語り手のヤエル（祖母と同名）である。また、ラデックのほうは、ドイツに抵抗した英雄的軍人であった祖父が、戦争終了直後にドイツ人を処刑することを決定したランシュクロウンの人民裁判に関与していたのではないかという疑いを抱き、調査を進める（この裁判では、少なくとも24人が殺害され、100人以上が拷問の結果、間もなく死亡したとされる）。この作品は、二人の愛の深まりと家族の歴史の探求の過程が「あなた」に向けてヤエルの一人称で語られ、その合間に、明らかにされた双方の家族の歴史が三人称で挿入されるという構成をとっている。

物語の終わりで、祖母とともにアウシュヴィッツ行きを免れ、戦後はイスラエルで彼女と人生を共にしたエリアスという男性の孫から手紙が届く。それによれば、エリアスの没後に日記が発見されたが、どうやらチェコ語で書かれているらしい。ヤエルはラデックとともにイスラエルに赴いて、その日記を読むことによって祖母が抱えていた心の闇を明らかにしようと決心する。そのようにして二人が死者たちの人生を追体験することが今後の人生の課題となるであろう。ヤエルは、そうした探求の過程で篤い信仰を持つ女性たちに出会い、すべては偶然ではなく、そこには摂理が働いているという思いを深めてゆく。

この作品は、ドイツとチェコスロヴァキアの現代史をめぐる小説であり、ストーリーも登場人物の関係も非常に錯綜しているので、決してわかりやすいとはいえないが、さまざまな思いを誘われる作品である。題名を文字通り訳せば、『沈黙の相続人』となろうか。死者はもちろん何も語らない。その子どもたちの世代も、戦争の渦中で犯された犯罪について沈黙している。ひるがえって、現在、沈黙どころか、歴史の修正・改ざんが公然と唱えられ、歴史認識が政治と直結していることを日々痛感させられる。この小説は、たんに遠い中欧で起きた他者の物語であるにとどまらず、われわれが今ここで、どのように歴史に向き合うかを考える上で大きな示唆を与えてくれると思う。

（La Movado 2018年4月号掲載。なお、転載にあたって一部加筆した。）

（追記）

エスペラント版には、原著にあったドイツーチェコ関係小史のほか、詳細な訳注が収録されていて、物語の背景を理解するために有益である。

ドイツ語原著

